

空手道競技における安全対策

空手道専門部 神山 卓（県立草加東高等学校）

はじめに

一口に『空手』といっても、世界中に数え切れないほどの団体、流派、会派があり、それだけ目指す方向性や思想など、主義主張はさまざまである。統一のものとして述べるのは非常に困難であるが、武道としての空手道、日本の学校スポーツで見られる空手道（一般に伝統派空手、寸止め空手といわれるもの）において、「決して人を傷つけるためのものではない」という考えは共通のものであるといえる。『人に打たれず、人打たず、事なきを基とするなり』、『空手に先手なし』といった、人格形成や心身の鍛錬などを目指していることを示す文言は各団体とても多い。以下、空手道の競技という面についてのみ挙げていくことになるが、競技以前にそもそも空手道は安全でなければならないともいえる。

1 安全具について

競技規則についても多種多様である。この場ではここ 20 年ぐらいの高体連空手道専門部主管の大会で着用を義務付けられている安全具を挙げる。

『防具』ではなく『安全具』と称していることも主張の表れである。

20 年ほど前	現在
① メンホー	① ニューメンホー
② 拳サポーター	②拳サポーター
③ 胴プロテクター	③胴プロテクター
④ファウルカップ（男子のみ）	④ファウルカップ（男子のみ）
⑤マウスピース	⑤マウスピース（任意）
	⑥シンガード（脛あて）
	⑦インステップガード（甲あて）



メンホー

ビニール製、空気を吹き込む



拳サポーター

ウレタンが拳の前面をカバーする



ニューメンホーVI
ポリカーボネイト、EVA フォーム



拳サポーター
PU レザー PU フォーム

2 ルールについて

空手競技規定より、安全に関わるものの中でも、特に打撃に関する禁止行為の顔面への接触についての説明を一部抜粋

シニア競技者の場合、顔面、頭部、頸部への接触が相手を負傷させるものではなく、コントロールされた軽いものであれば許される（但し、喉は除く）。～中略～

カデット&ジュニア大会の場合、頭部、顔面、頸部（フェイスマスクを含む）への手技による接触は禁止される。負傷の原因が自己の責任によるもの（無防備）でない限り、コンタクトが軽微であっても触れた場合は、ウォーニング又はペナルティが課せられる。スキントッチ程度の上段蹴りは、得点となり得る。スキントッチ以上の接触には、ウォーニング又はペナルティを課す（無防備の場合を除く）。

審判の判定により得点や反則が課せられる競技であり、その判断は容易ではない。安全具の機能向上に伴い、顔面への強い打撃でも得点となっていた時期もあったが、最新の規定では『触れたら得点ではない』旨が強く指導されるようになった。その他の禁止事項も含め、審判団にはより正確な見極めや試合のコントロールが求められるようになっている。

おわりに

高体連の大会における事故の件数は、大幅に減少している。安全対策の成果が如実に表れているが、競技としての空手道はまだまだ変化していくだろう。ただし私見ではあるが、世界的な普及につれてまた新たな対応が必要になっても、安全具やルールの変更は大きな問題ではない。競技について述べてきたが、やはり武道空手道を修行していく意義を常に自身に問い続けること、そして空手道の理想を追求し続けることこそが大事なことであり、競技はその過程でしかない。審判とルールに沿って競技する『スポーツ』であるが、世界に誇る日本武道の精神性を第一に考えることこそが、空手道の安全に最も重要である。